

平成25年度 第2回府中市環境審議会会議録（要旨）

平成25年6月11日（火）
午後6時半から午後8時半まで
府中駅北第2庁舎3階第2会議室

- 1 出席委員 安藤正邦委員、伊東準一委員、加藤信次委員、清水淑子委員、石谷真喜子委員、川辺清二委員、増山弘子委員、宮地賢委員、金子富紀委員、竹内章委員（副会長）、玉山真一委員、塚原仁委員、室英治委員（会長）、榎本弘行委員（14名）
- 2 欠席委員 田中あかね委員（1名）
- 3 事務局 加藤環境政策課長、遠藤環境政策課長補佐、宗村環境改善係長、監物環境保全活動センター担当理事、環境改善係海野サンコーコンサルタント株式会社3名
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事 報告
(1) 第1回環境審議会会議録の確認
(2) 現行府中市環境基本計画の経緯及び進行管理について
審議事項
(1) 次期府中市環境基本計画の全体構成について
(2) 次期府中市環境基本計画の施策の体系について
- 6 資料 資料1 アンケート調査結果【検討用抜粋版】
資料2 府中市環境基本計画の改定（主に計画書の前半部分「計画の目標と施策体系」まで）の考え方
資料3 計画の基本的な考え方
資料4 府中市を取り巻く環境の現状
資料5 府中市の環境課題
資料6 計画の目標と施策体系
その他 平成25年度第1回府中市環境審議会会議録【要旨】
府中市環境基本計画策定アンケート調査報告書（平成25年3月）
参考資料1～4（平成24年度市民検討会）※新規委員のみ

【議事内容】

報告

(1) 第1回環境審議会会議録の確認

第1回環境審議会議事録に修正などがあれば、6月25日(火)午後5時までにメール・ファックスなどで事務局へ連絡する。期日までに修正などが無ければ、本内容で公表する。

(2) 現行府中市環境基本計画の経緯及び進行管理について

副会長 「府中市環境基本計画」策定の経緯を説明)

会 長 「府中市環境基本計画」策定の経緯、審議会での経過の説明があった。意見や質問などはあるか。

委 員 平成22年3月中間見直しの結果の資料はあるのか。資料4・5になるのか。

副会長 中間見直しのまとまったものが別にある。

会 長 次回に事務局から配布をお願いする。

委 員 アンケート調査はどのような方法で行ったのか。

副会長 市民、事業者アンケートを実施するにあたり、どのような内容を聞けば良いかを環境審議会で検討し、20項目ほどの設問を取り上げた。市民アンケートは、無作為に1500通を送付し、411通の返信があった。事業者アンケートは500通を送付した。農業従事者アンケートも行い、府中の農業の実態、考え方など、17名から回答があった。小学生、中学生アンケートも行った。昨年12月に実施し、3月にまとめた。環境行動指針の内容についての状況が、今回のアンケート結果により理解できる。

会 長 報告書にアンケート結果があるので、読んでおいてもらいたい。

委 員 早くから市民の考えを吸収して計画を作ったことが継承され、昨年のアンケートにつながっているので大事にしたい。評価については今後の課題であり、考えていかなければいけない。

会 長 大事なことであり、審議会のミッションでもある。

副会長 現計画作成当時、朝日新聞からの取材があり、なぜインタビューを受けたのか不思議であった。検討委員に新聞記者がおり、市民手作りの計画は珍しいとのことであった。現計画を今見ても基本的に内容がおかしいものはない。データ更新などの必要はあるが、第2次計画の作成にあたり、大きな変更は必要ない。市民手作りなので、細かい部分の話もあるが、それが良い。

会 長 記事を見たいが、残っているか。

副会長 残っていない。
ごみの減量50%を掲げた。今のごみ問題の解決につながっている。

事務局 (進行管理の説明)

委 員 第1次計画に示された連携体制で、うまくいっていない部分はどこかあったか。

事務局 第1次計画では評価をするための数値化が整っておらず、うまくいかなかった。第2次計画では指標を用いるなど、進行管理が可能なものとした。

事務局 第1次計画の「各主体の役割・連携体制」に示されているように、環境保全活動センターを中心に市民、事業者が連携して計画が推進されていくことが望ましいと考えられていた。当時はセンターがない中で、団体であれば、団体数や団体の活動内容の相違、企業であれば、CSRなど先進的な活動を個々の事業者としては実施しているが、他企業との連携はどうすれば良いかなど、実際の運用段階でうまくいかない形であった。現在は、環境保全活動センターがあるので、市民団体や企業に声をかけ、興味が薄い市民などに周知、理解を求めていく活動を期待している。

副会長 行政の中で組織がうまく回っていたのか。当初、マネジメント推進本部が中心となり、庁内推進会議が各部局と連携して推進していく形であったが、実際はどうだったのか。

事務局 組織としてはあるが、計画推進のための庁内推進会議は現在調整中であり、開催に至っていない。第2次計画の策定にあたり、内容の検討を庁内推進会議で対応していく。

委 員 各主体間の推進協議会はどうなっているのか。

副会長 運用できなかつたのが実態である。協議会の役割は計画に記されているが、当初、役割が理解されずに運営されていた。途中で役割の趣旨が変わってしまい、2年間で環境保全活動センターのあるべき姿を検討した。地球温暖化対策地域推進計画に再度、協議会の重要性を要望した。

会 長 当初、立派な計画ができたが、実際に実行していくにあたり、問題が出てきた印象がある。今後は、環境保全活動センターがあるので、活用することにより動き出すのではないか。

事務局 第1次計画では推進体制などの理想が掲げられているが、組織が固まっていない状況で推進されてきた状態であった。今後は、環境保全活動センターが中心となり、市民、事業者の連携など、一体化して推進することを望んでいる。行政の役割は、環境政策課がそれぞれの組織の事務局となり運営していく。

審議事項

(1) 次期府中市環境基本計画の全体構成について

事務局 （「次期府中市環境基本計画の全体構成について」説明）

委員 すべての章立てを審議するのではなく、1章ごとに審議する方が良い。

事務局 今回は、全体の構成についての審議をお願いします。全体構成をイメージするにあたり、どのような内容がそれぞれに入るのか、イメージしやすいように資料3～6を用意した。それぞれの詳細な内容は、今後、議論をお願いします。

委員 全体を見てから、個別の議論が良い。

会長 個別の議論は後にして、今回は全体の構成を理解するという趣旨である。

事務局 （「次期府中市環境基本計画の全体構成について」説明：続き）

委員 計画の対象となるカテゴリーは、どこから出てきたものか。

事務局 資料6にも触れているが、第6次総合計画と整合を図りつつ、第1次計画の趣旨を踏まえ、第2次計画を推進しやすいカテゴリーとして設定した。

委員 第6次総合計画の計画期間は8年間である。整合を図るのであれば環境基本計画も8年間とするべきである。

副会長 前回の会議で説明したが、平成24年度の審議会です分に議論した。

事務局 総合計画と整合を図るために9年間と設定した。総合計画と環境基本計画の計画期間の最後を同じにすると、さらに次の環境基本計画を策定する際に、総合計画の体系や内容が決まらない中で検討することになり、整合を図ることが難しい。第2次計画は8年+1年の9年間とし、第3次環境基本計画の検討時に第7次総合計画の内容を見ながら策定できるようにした。その後は、総合計画とは1年間ずれた状態で8年間の計画期間とすることを想定している。平成24年環境審議会から中間答申を頂いている。

副会長 第1次計画の策定時に、総合計画と中身のすりあわせができなかった状況であったので、反省を踏まえての計画期間である。

委員 資料6の1頁に6つの基本方針とあるが。

事務局 5つの基本方針の記載間違いである。訂正する。

（2）次期府中市環境基本計画の施策の体系について

事務局 （「次期府中市環境基本計画の施策の体系について」説明）

委員 第1次計画からは、施策の体系がかなり変わった印象である。

会 長 今回提示されたものは、基本方針から個別目標へ直結している。第1次計画では、その間に基本目標があり、重複して複雑なイメージであった。平成24年度審議会で指摘があったため、今回の体系案となった。

委 員 第1次計画では基本方針に「地球環境の保全に取り組むまちをめざして」があったが、今回はなくなっている。地球環境問題は重要であり、はっきりとした表現がどこかに必要である。

副会長 地球環境問題は、すべての基本方針を進めることで達成される側面がある。第1次計画には基本目標としてあるが、それに基づく個別目標には繋いでいない。提示された体系案で、全体を包括する地球環境問題への対応について説明を記載すれば良い。

委 員 地球環境問題を表現するのであれば、望ましい環境像に入れるくらい大きい話である。柱の一つとして地球環境問題を表現するよりも、提示された体系案が、基本方針としては実際にやるべきことが見えて現実的なイメージである。

委 員 東日本大震災前後でエネルギー問題の意識が変わっている。放射能問題なども含めて、どの様に実際に進めるのか難しい問題もあるが、震災を踏まえての対策がある。

委 員 重点施策に関係しているが、第1次計画に歩きやすく自転車に乗りやすいまちづくりが触れられているが、これまでは環境面だけであった。震災時に自動車が動かず、道路が分断されるなどの課題がでた中で、歩きやすいまちも今後の考えるべき課題である。

副会長 体系の個別目標に生態系の保全とあるが、資料3でも「生物多様性」について詳細な記述もあり、今後、生物多様性というキーワードを入れることが重要である。

委 員 今回の審議では、大まかな体系を決め、個々にある記述は今後、詳細に議論して頂きたい。

委 員 細かい部分は、これから全体を見て議論しなければならない。

事務局 事務局が想定した内容よりも、先行した熱い議論に感謝する。意見にあった生物多様性、放射能の問題については、第6次総合計画でも課題として挙げられており、第2次計画においても十分に検討しなければならない。

委 員 今回の資料にある提示された体系案は、アンケート結果も活かされており、評価している。エネルギー、放射能の問題などの難しい課題を体系のどこで触れるのか、今後、検討しなければならない。

会 長 本日、出された意見などについて、事務局でまとめていただき、次回までに整理して報告する。

(その他)

事務局 次期府中市環境基本計画の名称について諮る。事務局では、次期府中市環境基本計画の名称を「第2次府中市環境基本計画」とし、現行の環境基本計画を便宜的に「第1次府中市環境基本計画」と位置付けたい。

副会長 総合計画、都市マスタープランなどでは、第何次という呼び名であるが、緑の基本計画は府中市緑の基本計画2009という名称であり、市でも統一されていない。はっきりするには第1次、第2次…とした方が良い。

委員 わかりやすくするには、事務局から提案された呼び名が良い。

事務局 行政の計画では、最初に作る際には第1次とはつけない。最初の計画期間が終わり、次の計画は第2次になる。期間のある計画は第何次という名称を使用している。

会長 次期環境基本計画の名称は、「第2次府中市環境基本計画」とし、現行の環境基本計画は、便宜的に「第1次府中市環境基本計画」と位置付ける。

4 次回

第3回環境審議会の開催日は、事務局と調整のうえ候補日を検討し、再度、委員にメールなどで連絡する。

(閉会)
以上